芭蕉翁文集

上

中村俊定文庫
文庫 18
530
1

初ちるや雪を押しまぜる

[illegible]

句の文章試論せしに素堂の文章を
以て主とし氣八諧味を主とすと
拙者や古の國々俳諧体の句あり諧
乃文章あるにあり俳諧の文章
も以て体格をはじめ詞遣言葉
を数多の文章に諧あることを志ざす
もの志ざすに芭蕉翁を以て俳諧の
粗句を用ひ多きを以て俳諧

中村俊定

[illegible]句こゝろ清を述る文章まゝ
同じく筆をはこび清をもとゝする書
法にて有年を乃つゝ俳諧の文章の
極致となる趣きしき者抜の文体
やまとふみしきかふも奇清極まるまゝハ
あやし此女書郎まゝる清く厭きなく
ゆ者まゝ飯のめしし芭蕉文章ハ八孫の
こゝくゝまゝと此こゝも書よゝく厭め

一飯を勢多にあるを志まゝ
ハ孫を奇味飯を正味のいまゝ
歐陽の文章孫孫しゝ同し聖和も
まゝ有て此芭蕉の文章を編て
厭すルの上をもくゝ古きハ去の事志
蕉翁發句集俳諧集等の蕉文集を
編まゝふ文章なゝくゝ土芳の
芭蕉文選をもふゝし乙州の發句

小文史邦が小文庫許六が文集支考が
文操文雅の事ども此の清書を蓑虫せ
を拾ひて芭蕉翁文集と題し
わの屠社仲間と也し我義前の情解
ともに我見を影ひ板をうつす
蕉翁の文章社不朽の盛事をあら
いしく侯乃好事はまとへんと以為此の
いしく風雅ともけるものしるせて

あるべきなり時を安永五年丙申八月
東山神樂岡嵯峨乃草庵にて
蝶夢幻阿自序

目録

松嶋の賦　陸奥乃賦
鳥海の賦　佐渡の河
芭蕉を移す辭　柴門乃辭
小督塚乃辭　專吟小餘の河
許六ゟ離別の辭　傑掃考說
笠張乃說
閑廟の說　美濃乗
栖去乃辭　銀河の序
曠野集の序　伊勢紀行の跋
續原集乃跋　壺碑文乃記
十八樓の記　幻住菴の記
紙衾考　洒落堂乃記
洒落堂乃記　鹿島紀行
甲子吟行　更科記行
卯辰紀行

石の法頌　拝杖の賛
雲水の賛　西行上人の像
卒都婆小町の賛　自得老人の賛
閑居の箴　唐右丞の絵
机老の銘
東順禅の傳
古戰場を弔ふ文
嵐蘭老の誄

芭蕉翁文集卷上

松嶋の賦

我もし筆の海にあらば松島の月は筆の海に浮ぶ月なるべし。風もしらべの琴にあらば松島の風は琴の風なるべし。江の中三里浙江の郷を思ふ。七十二峯秋百乃湾々歌つくすべきを天球指南すべき北斗なる

中村俊定文庫

匍匐あるを二尺ばかりなる松の
ひとつ右よりつたへる屋あり抱きあり四孫を
ゆくゆくは肉ふくこれかたよ遠浦かふくるは半浦地鳴
肉裡しは海屋風雲離り岩をつたへの小船漕つまて
者をつれあるくをつてもとよりもむ俳を
拾しは赤丸松山を寺となりなるく松のひとりく墓を
繁く羽紙かはしは枝をもつ樹乃すを水も流者
かくれくとは無しは野田の玉川沖乃石を繰繁く
萩武張の松は焼よ為をなりくるは塩竈乃浦

小ち高ゆの陶明神ゆり神前乃ゆ灯籠文治元年
泉の三良寄進ゆ雄高ゆ城ち地ゆ雲居禄師
乃別宮社ゆ空禅石瑞山寺ハ相模守時頼入道の
建立也時ゆ二十二世の昔ゆ望宗四良出家しゆ入唐ゆ
胡乃後開山ゆ拝のち伊達政宗再興しゆ七堂伽
藍ゆ竹ゆ寺法蓮寺ハ海岸小浦若松新ゆ
花綵時ゆ紅ゆ松の孫ゆ枝葉湖風千吹
きゆあゆ屋曲をのつゆたゆゆゆゆ拝の乳色貫ゆ
小ゆゆ英人乃松を殺ふち大山

すゝみなせることや造化の至いつまの人か筆を
ゆるし詞をまさに

翫星乃賦

今宵は名月なりやまぬとて雲ら二三子にいさめられて
私をかの田の浦ことさら一すぢも光をわかるゝまんなかに
成秀といふ人のあれは舟漕入させて酸翁狂客の月
こうの遠くこまやかに上私の中よりおもしろきふしめき

こひをまて鷲よ漕ひて簾をまくま蓬莱から山や其の波
間に芋の生けるをいつまでも鯉鮒の切身てさゑあふしもへのをも
やうて岸上に燭をかゝへ遊を乃かゝてそのくいさ雨は
高を伴を月あるの川からも私く涛し出て此上なるやふ
廻るものまくあゆ仲秋のみは月に月なし浮世堂平
涛しむるふを焼山とふむるこのし今宵をを其のあるを里
遠のことしぞかの書よれ擱下さまたこ之上水荘ら
左右まての種て其の間ゝ十二峯乃影をとすまさく
ゆふ雅ふ月も三年ほしまゝ半上のうちふかくゆるまでいつまか

清山[illegible]を[illegible]ましてあるに此無[illegible]
おもしろ[illegible]客をもてなせる心さしいと
切なりやそもそも此月の中[illegible]ほと水面に[illegible]
影をくだきなしつゝふる雨やいまし
方[illegible]を世乃中[illegible]
京極黄門の歎息の詞なるを我もさすがに此里に
遊ひまゐてゝ恵心僧都は衣紋[illegible]
の後[illegible]あるに無[illegible]
なりは無垂[illegible]

月を横川にかゝふるゝ姑蘇城の鐘[illegible]

鳥の賦

一鳥小大[illegible]名を異にし小を鳥鶏と云大を鶏
太と云此を反哺の孝を[illegible]
或を人家[illegible]人を[illegible]天竺川乃鶏を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]りなんと詩奇妙の才士も情あるふるまひし[illegible]
[illegible]ものを[illegible]只貪猟の中に[illegible]
德大山[illegible]又世の罷をかうむる時[illegible]
害又大なり然中[illegible]
[illegible]翅を[illegible]利を[illegible]
[illegible]味も[illegible]美鳥の[illegible]
人不平の氣を抱くこまるる凶事[illegible]
[illegible]乃[illegible]田野よりくハ
田畑を費さ粕[illegible]苦の労[illegible]或[illegible]

かいるをつゝ池乃蝕をくらふ人の尸をまち牛馬[illegible]
[illegible]むさぼるを[illegible]命[illegible]乃
[illegible]をくあやまりを[illegible]大
[illegible]世[illegible]心貪欲
[illegible]人[illegible]
釋氏も是をふくゝ俗[illegible]
[illegible]嗚呼世よく
[illegible]三足[illegible]金烏[illegible]罷

芭蕉を移す辭

菊を東籬に植へ牡丹を紅白の是非なりて世塵に交はる蓮を水清くして花咲きいつまれを栖とせ捷を
う時芭蕉一もと植ゆ風土芭蕉の古ふるやかなひ毛数株莖をろ数へて葉歳をかさねりく
庭をせまめ萱ゆ狭端もかるるこのとなる雪人ほ
くるる養はなるる次書友門人ゆふ来しる芽を

の根をもてて所に植ゆ庵になん来あ
一もせみちなくのり徘徊ひ立く芭蕉葉をてて
破れんとほまもかまきを籬乃隣る地をのくあるを過
人ふ雲雨ひ風ひ、のひなを軽雲るを解き
筆ひすきにを書ひ杖をひるになるあ花ゆと
遠き旅ひ杖むねふ来ゆ人ひ別き芭蕉の名
ちをひくるきめ住しを孤ふこひ世ひ更秋を色
くぬるひを紙に涙を拭くふ月ひ半花稽
老ふほひをきをこのり遠るさを人くの契も

むつのにかゝる所なれはあらうえ立ちゝく四方蒼もやゝ
ちゝうゝ三間の茅屋つきゝゝゝ板の柱ゝゝ清らかに制
れゝ乃枝折戸やすらゝたゝ恒につゝ志ゝゝし南
下の池より流ゝく水樓ゝゝを地ゝゝ面士下一畝ゝく
柴門柴をすゝゝくなゝめく術江は潮三服出浦
ゝゝく月出ゝゝ月出ゝゝ初月は夕より
雲ゝ紙ゝゝ面をゝゝむ名月はゝほひふゝてまり
芭蕉を植すゝは葉ゝゝふゝく琴ゝは風ふゝ吹ゝ
求ゝ半吹きゝく風島は屋を痛ゝめ書扇やゝれ

ゝく屋を少ゝむ半ゝゝく花ゝも花やゝゝ茎ゝゝれ
ゝも翁小あゝゝす山中不枝の新木ゝゝゝ
ゝは性ゝゝ僧懐素ゝは是ゝ筆をゝらゝ張樓渠ハ
新葉を見ゝく陰蕉は力ゝをゝゝ折り平は二ッを
小ゝらをゝく出乃後下蕉ひゝく風面ゝ破ゝやゝれ
ゝ紙ゝ

徒然草詞

喪子所なる者ども酒を飲めども樂
をもととして悲しく泣くもの悲しく
者ども法師を主として佛事さかく
西上人共法師ども法師ども
山里にかくまと誰をとふとなる猫すまんと思ひ
猫をもむかへ松をしるなる長嘯任士乃田客ども
半月共深を清れた主を事月共園をしかふと素畫
つるにかのとなるをいかしむ
う記をさしりをよ詩敷ども

小督塚付祠

阿川寺に詣つ大井川およ流まて嵐山右手高く
松乃尾の里ふつ市の寺ふ義ふ詣る人の住まを
松尾林乃中ふ小祠屋敷ふ
之仏の堂いつまつ市しの行乃
ふ動め橋ふ付ふ
墓ふて三間屋共陳藪共間ふ共ふ市ふ橋を

[illegible]とかゝ[illegible]くも錦繡綾羅[illegible]上小起[illegible]
[illegible]中[illegible]茶[illegible]恩君村の柳亜女[illegible]化
のむ[illegible]おもひやる[illegible]

[illegible]や[illegible]乃[illegible]人[illegible]

紫門の梓

[illegible]秋[illegible]面[illegible]乃初深切[illegible]
別をおしむ[illegible]雁を[illegible]

[illegible]器[illegible]風雅[illegible]
[illegible]好[illegible]風雅[illegible]
[illegible]画乃[illegible]
[illegible]用[illegible]一[illegible]
君子[illegible]多能[illegible]品二[illegible]用一[illegible]
[illegible]繪[illegible]師[illegible]風雅[illegible]
[illegible]画[illegible]徽[illegible]入[illegible]
[illegible]見[illegible]
[illegible]扇[illegible]用[illegible]

[illegible]

許六に離別の詞

本雲法師を師とする雲水人を森川氏許六といふ
古一へよりの風雅を慕ひ情あるの人なり後年芭蕉の
是をもつて破門を立て雲水を己が心ばせあて掬の
実試をもつて今住所お定めなき長剣
を掬ずして素題をもつて世界行脚雲
乃黒き羽織乃ちまを結ぶ風雅をこのみ
[illegible]

推はなの心まことよりいでたる花
うき人乃語まことへ本来無縁

傳尊吟より餞別の詞

杖頭千貫の鞋をうるとく笠乃もとにて之源太郎
孫太郎より兄傳平に武江東東深川乃辺庵をひらく
時に年一歩をうつむを書めて兄傳乃手風雅をなぐさ
市を過るに乃和乃郷乃身を移るまとしまく

伊勢熊野を訪んとて身を雲水に任せ
流れ来て嶺をすぎ紀の国に翻る野にふ
雲乃下泊る人臨乃蓑いとまよりて
ゆくえ一今こそ別まとて世を少年とまの箱根山
遥まんとの白雲乃ゆくまに乃ゆくまに猿鳥乃啼
ちの紀ちまと来へれ君乃別をめくまとくまよ
袖まと岩まとまとく袖乃ちめ
露乃毛乃ちまと衣乃毛乃雲

笠張乃記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

媒掃乃説

[illegible]

一一[illegible]師走の十二日媒掃乃[illegible]

儀式次第乃所の作法を赤例あるべきにて[illegible]

媒[illegible]掃[illegible]小[illegible]れ各門さしこもりて奥乃

一乃[illegible]屋風[illegible]ひ形[illegible]央神[illegible]釜[illegible]堀[illegible]

[illegible]上張[illegible]紀[illegible]定[illegible]いまむ[illegible]自

新[illegible]の偶[illegible]

中に持仏の[illegible]家[illegible]

掃の[illegible]

[illegible]味噌[illegible]大男[illegible]

[illegible]

たつ[illegible]

[illegible]

閑居説

色を君とし花ふくむ雨のしたに佛とし戒乃ちとなるをく
ゆ山ともなる所ふ拂ふ時のあやまちにたゝく多間のかくれ
あるうくし人まあてゝぬの山れ梅乃下ゆ一日おもひれ
ゆ春匂ひふちて西ふの宮乃人めれ閑もゝ俗人ゆくハ
いうゆ有やまちをのし出てむ塵をんれ陸の梅乃下袖
ちにまくゝ春をうつ身ゆ「ゆ」ふ事めもおほうれ山を
若者身れ乃赤をむゝ乃ゆ乃中乃ゆ魂をくゝめし

れれ情をうまを人ゆ乃ゆ先は遠ふまゝく罪ゆゝめ毒く
人生七十を稀ちゆゝくゝれ盛ふゝゆ毒ゝゆ乃ゆふ
二年人生毒れ乃ゆ先者のまゝゝ年一夜の夢れと
八十年六十年のゝゝひがふくゝより涉まゝ人ゆまて
寄樹ちに動起しゝゝ樹を人ゆ別ゝれゝゆとゝむさ
ゆゝ出ゝ乃ゆ毒ゝ乃ゆ毒ゝ煩惱長しく一藏
すくゝゝれれ毒れすくゝれれ毒ゝゝて世乃ゝ毒
ふゆくゝ貪欲れ魔毒ゝ心を怒ゝ溝血ゆれれ
て生ゝゝ毒ゆくゝれと蘭華老仙乃性利害を破却ゝ

[illegible]

人生れハ幸用乃年ゆゑ出ることなく徒業をけまとくる
もうし[illegible]敬の戸を閉ふく杜氏の門ハ須さもるハ
友ずき武友とし貪を富ましく[illegible]年達ハ頑更
自書こりつゝ禁戒とゆ次

[illegible]須ゆゑ門の位

栖吉く辭

[illegible]

睦月きたゝ花ゆゑ風ハ[illegible]
閑むとゝ風情ゆゑ[illegible]
磨心なくし[illegible]
武ゆゑ[illegible]栖を去腰ゆゑ[illegible]
[illegible]蕊をかゝんとゝ

[illegible]

義を杜園に求めて出でゝ浮沫の如く泡沫の如く
時を夢の如く陰晝夜の如く火をゆめゝ陽晝夜の如く水ゝ義
乃ち形骸を愛し命を惜しむ時を花の如く常と変ず
すゝ紀を帳を張ゝ以て騒擾記すべく擾安園
莊周の蝶夢これを理有りて物を畫さんに夢を聖人
君子此夢を此す孫日忘想夢乱乃氣疾病義
しうり滅了ぬと夢を見ることいまる人夢せり
我を忘ふゝ伊陽書里まゝ書ひまりて教を床を
同ゝ起外形乃抑乃勞を助ゝ百日の経新のゆゝ

心ゝ乃ち片時も離れ別れ別ゝ時を或時を
心書ゝ深ゝ思ゝ書ゝ夕神八形ゝ見ゝ
役をゝ保ふ

阿波野集序

尾陽蓬左檀木書主人義の号中集を編ゝ名を詩ゝ
那ゝ詩ゝ仙那ゝ詩名あゝ詩ゝ詩ゝ思ひやゝ
詩ゝ世詩郷ゝ施梅をゝ枝ゝ世ゝ雅を為ゝ世ゝ

[illegible]

銀河之序

小陸道五彩脚にて越後の國出雲崎と所謂て海を
のれ佐渡の嶋を海乃面十八里濤波を隔て東西三十五里
にして[illegible]峯の險絶谷を隔て[illegible]
[illegible]あるやの小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

流て月かすみこめる江河まてふかのまて平砂しらと分
さらに沖乃とをよりは波の寄志ハ〳〵ちかく泥きつる
こく揺ち紅色こそ紅下紫ひまく紅と黄の松も
さらさらに墨は筆はなくとも書ほうをうりに
なん作れる

あら海や佐渡へ横ふ天の川

續東集跋

一柳軒不卜はあ〻ま方は墓境にはひまはる心さしを
ものかゝる山のいとねをくもりとあるをもて雲を
屑し湖水乃月に琵琶はうたふ風雅の如き所
はあ〻是よりの先も素行の如くあるへしとて乃ふと
ゝ〻あ〻裏林きく雨ほとゝぎす東籬乃菊も
倉はは乃に庵細乃牡丹を花はを矢ぶ梅乃見ひ
樹はを無も杉ふ雪は時ふ雪へを句もまく人を殺もし
杉をれ竹紀林乃入をの花の香はをにつをを志ま
本は墨は指ひく左右をとをもく稚をの四節をなす

剃士たちに先て赤そうに上る赤ふ法や樂ア
ちくもの笛をめるもむ少ゆうといもむ上ゆるも露に
目をめし鶯の口を戸ちゆ行ゆ浜貴まうれとし
年ゆ江上に潮を抜きく強く舊屋の雪に枕ふ寄す

伊勢紀行乃跡

強き神乃花も明く実も みのるに紅ゆ写ゆ
志ゆ来ゆ重ゆ世ゆ式真面記ゆ色部乃里に橋

森を一ゆ後向井氏去来のあしむつまゆ記ちゆ里ゆ酒の
業にのゆ折く其き幸きゆ記ゆ強ゆ心乃水に浸ゆ家
ゆ深ゆ作ゆく強ゆ一掬ゆ百川の味ひを志ゆ
ゆ影ゆ今ゆ乃秋いゆ水を分く伊勢ゆ白川乃
秋風ゆ社演花の影ゆ水ゆ山ゆ
ゆゆゆゆ書あゆ我ゆ乃事に
を記一ゆ水を記ゆ編ゆ感を
ゆゆ三ゆゆ社ゆ作ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ曲ゆ季

東ふしあたまさ彦の社乃風

十八樓考記

英湾て西なのうりけふ乃ちてて水楼けうあるとかるる
氏ふふ稲葉山後年言く孔山左右にかさけうくちの民
遠うす田中はちを板乃一むにうう孤く峯年はふ
民家を作出かはみ乃乃ふるとと深しし曝布而く
年引ちうく右ま波しし永湾ふ里人けうしまく漁村

物をなくへく細をひき汐をはの清ふ
うく山楼をもてなをふ似ると芳うる玉夏独白も志高
ちうう入り社彦し用年かうく波ふむすうくかと大
乃彦もやちうく言稼のうくて粉朝ちるて諫乃
やく海しき乃をれなる事をし海かの潮波乃八のなあ毒
湖れ十の境も涼風こ味乃ちうちふ地ちひるあうちを
山楼乃名をいうをちなは十八樓をいい海ほきなう
山あうと用年乃彦れ地涼し

壺碑文考記

[illegible]碑[illegible]六尺[illegible]横[illegible]尺[illegible]苔を穿て文字かすれ也 四維 國境の數里[illegible] 城 神龜元年按察使[illegible]府軍大野朝臣東人を西路軍也天平寶字六年參議東海東山節度使同將軍恵美朝臣構修造而十二月朝臣[illegible]聖武皇帝乃[illegible]時平[illegible]むとよりよみ[illegible]

[illegible]山[illegible]川[illegible]

石[illegible]土[illegible]れ[illegible]考[illegible][illegible]時[illegible]代[illegible]

[illegible]

乃一德存命[illegible]

[illegible]年[illegible]

紙衾[illegible]

古寺[illegible]

[illegible]

里[illegible]峰[illegible]を[illegible]頭城白くして[illegible]玉大坂
[illegible]

幻住菴の記

石山の奥岩間[illegible]石山あり国分山の[illegible]
国分寺[illegible]名[illegible]林[illegible]細[illegible]流[illegible]
翠微[illegible]登[illegible]二百歩[illegible]八幡[illegible]

[illegible]神仏を除院の[illegible]係とのみ唯一乃家[illegible]
[illegible]年を南神を祭やうを利益の業を用ひ志
[illegible]又事ふ[illegible]業を人れ諸[illegible]
[illegible]志いう[illegible]侍平住[illegible]戸あり[illegible]
拍無[illegible]を[illegible]屋拍[illegible]望[illegible]拍程[illegible]
[illegible]と幻住庵と[illegible]あ[illegible]の俳[illegible]の[illegible]雪嘉[illegible]
氏曲翠[illegible]伯父[illegible]人[illegible]今[illegible]八年[illegible]
[illegible]幻住[illegible]人乃[illegible]
又[illegible]中を[illegible]十[illegible]

[illegible]蓋世[illegible]みのを[illegible]蟠牛の家を[illegible]奥羽家
[illegible]署を[illegible]面をこう[illegible]
小海乃[illegible]
小[illegible]の法菓の[illegible]
[illegible]
[illegible]初月[illegible]入[illegible]山乃やく出
[illegible]山[illegible]松[illegible]時[illegible]
[illegible]

おもふ為に無一て く魂を呉楚東南のくに身を
瀟湘洞庭の川山を未申にそなたに人家を見ふ
隔り南薫峯よりおろし少風あを浸一て く涼し
日枝の山比叡乃高根より辛崎の松を霞こめて棲る
橋あり鳥もあり 舟ひく笠をかふかふ本樵の形樂の
小田の中の黄なる雀蛍飛ふ夕闇に雨の新蛍
白き美景物少く中ほ一中ほも
こと山と士峯乃伊予かとひく武蔵野ふ紀すこと
思ひ出て秋田山下方人をかふふさふ山嶽千丈う

峯待樵の西山春雪の長津乃里を いかに くる雨
く細代の下ふ ふ毛美美集乃浦形の主架
打眺望こ海ふ うもと後出峯に遠の河 松の棚作り
葉の園産を ふく精の物 抑 名 を の海堂の
巣城 ふ ふ 高峯の王菊除 の
徒 は行 次 く 睦 碎山民 ふ く 廣 新 是 を
投出一 山 風 を 打 く 蔭 ふ 心 ま 形 時
谷 清水 流 ふ 自 物 く ふ く 蔭 を 住 く 一 邪 乃
井 へ い ふ ふ ふ ふ 人 乃 蔭 下 堅 高 く

住吉に行てこもりて侍りける時 拾遺 一間を
隔てて夜の和おきむとて 寂然
観世音 良山乃僧正 加茂の甲斐行うら 叡尊
はるひはよのもりいまそうめ 紙あるひと
いとやをしてこ集 紙 幻住庵 を 行 紙
手尾乃記 形 山 猪 森
きる器 本 橋 生 越 蓑
はうと 松 柱 勉 ふ人
ふ心を 勉 光 入

拾の稲 畑 加 紙 乃 至 畑 加 紙
農 日 山乃 夜 都 月 行
新 山 岡 両 非 かく
小 冥 山野 歌 人 世 人
月 拾 身 林 男 時 仕 命 施
を 乃 庵 入
観 祖 乃 花 花 方
志 生 陸 計 な 拾 孫 安 能 世 孫 孫

一ふしにつらなる消楽てふ風騒乃神をやなぐさめ老杜が
瘦たり賢愚文質のひとしからざるをいつれか幻乃
栖ならじやと思ひ捨てねふりぬ

先たのむ椎乃木もあり夏木立

洒落堂記

山は静にして性をやしなひ水はうごいて情を慰む
静動二の間にして住家を得る者有り濱田氏珍夕と
いへり目に佳境をつくし心に風雅を謳ひてよく濁りを拭
ひ塵を洗ふが故に洒落堂といふ門に戒幡を
懸て分別の門内に入事をゆるさずと書り彼の宗鑑が
客におしゆるされ亭主よりも一等くはへたり且それ
簡にして方丈なるもの二間侘紹二子が侘をつぎて
しかも其のりを乱さず木を植石をならべてかりのたは
ふれとなす抑おものゝ浦は勢多唐崎を左右の
袖のごとくし湖をいだいて三上山に向ふ湖は琵琶の
かたちに似たれば松のひゞき波をしらぶ日枝の山比良の高ね

高根とかく色不見そく高砂石山を肩はあらしに雪ふり
雪乃花を袋ふかはけてを鏡山を月をとゝふ演舞
濃抹の日〳〵年〳〵うりかゝらめ〳〵色道乃風雲をもとゝ
ゝふかゝらふ業歟〳〵

四方より茶碗吹入事為乃ゝ

潭月亭
ものがたりの記

[illegible]